

かさねの色目の花あそび No.40

【色目】根菖蒲 <表：白 裏：濃紅>

菖蒲（花菖蒲ではない、地味な植物の方）の根を表した色目だという。菖蒲の根は全体的に白いが、茎の付け根辺りが赤っぽい。その組み合わせのようだ。

現代人も端午の節句の「菖蒲湯」でその薬効のことは知っているが、平安時代は薬効を重用するとともに、同節句では「根合わせ」といって、菖蒲の根の長短を比べ合わせ、歌を詠むなどしたそうだ。



花材は、白いデンファレと濃い紅のバラ。そして、紅白のダリアも、その2色咲き。

かさねの色目の花あそび No.41

【色目】氷 <表：白 裏：白>

白だけで、氷の冷たい感じを表現。単調な色目だと思うなかれ。双方に変化を与えるべく、一方には砵で打って光沢を出したり、あるいは、糊引きや、貝で磨くことで光沢を出したりしたそうだ。日本人の細やかな感性が偲ばれますね。

これが冬の色目というから、不思議です。だって、目にするだけで寒さ倍増しそうではありませんか。

しかし、重ねの色目とは、そもそも季節の風物に従うことを重視したものだからOK。だからこそその重ねの色目なのです。

花材は、デンファレだけ。1種だけなので反則ですが、白い花器との組み合わせなので、お許しを。

こちらは白い花のホワイトスター1種。ホワイトスターもブルースター同様、茎を切ると白い液体が出る（あ、白と白。笑）。これを拭き取り、水で洗い流さないと白い液体が固まって、水を吸うのを妨げるので、要注意。葉を組み合わせると印象変わるね。

